

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600352		
法人名	株式会社 ユニマットそよ風		
事業所名	みしまケアセンター そよ風 グループホーム 萩		
所在地	静岡県三島市萩196-1		
自己評価作成日	平成26年 10月 20日	評価結果市町村受理日	平成27年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&lievosvoCd=2270600352-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成26年 11月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内は全てバリアフリー、手すりが設置され、明るさ、音、におい等利用者様視点で快適に暮らして頂けるような生活空間を整えて家庭的な雰囲気となるように努めています。近年はオルゴールの音色を流し、アロマを使って癒しの空間を作り安らぎを五感から感じて頂くようにしております。外気浴、散歩、入浴で気分転換をして頂ける様に日課を組んでおります
また、デイサービスの併設により、ボランティア様訪問による音楽、舞踊、マジック、詩吟等バラエティに觀賞でき週1~2回は参加して頂き外部との交流も盛んです。管理栄養士によるバランスの良い食事、おやつレク、行事食など常に喜んで頂けるように励んでいます。職員も明るく丁寧に個別ケアをするように心掛けています。体調の訴えが難しい重度化の利用者様の悪化予防に早期発見し医療とご家族様との連携を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し入った閑静な住宅地にある事業所は買い物も便利で、事業所の横には近所の協力者が作付、手入れをしてくれている畑に野菜が青々としています。その横にはベンチが置かれ、外気浴するには格好の場所になっています。玄関から2階のグループホームまで、手すりが施され、掃除が行き届いています。当日は、ボランティアの催しが行われ、入居者は職員とともに参加し楽しんでいました。重度化した入居者も朝にはリビングに集い、体操をしたり手芸をしている人の様子を見たりと職員が手助けをしてADLの低下を抑え、毎日楽しく過ごしている様子が伝わってきます。利用者会議やユニット会議を行い、利用者や職員が意見を自由に言える環境を作っています。入居者の人格を尊重した介護の実践に向け、会社の方針でもある研修に力を入れ、新たな課題を見つけてより良い事業所にしようと、管理者、職員とも努力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みしまそよ風独自の理念に基づき利用者様と共に「生活の充実」を大切にしている。	法人のそよ風憲章の基本理念と介護サービスの基本方針を毎日朝礼にて唱和し、話し合いで作られた事業所独自の理念とスローガンが壁に掲示してある。新人研修、毎月の会議等で理念について話し浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買い物の際あいさつや会話をし、また民生委員の方、自治会長役員の方の協力で町内清掃、防災訓練等に参加している。	自治会に加入し回覧が回ってくる。自治会総会に施設長が参加、地域の情報が入り、事業所の行事も地域住民に知らせている。民生委員の母親がデイを利用している為、家族ぐるみで畑の手入れや防災訓練への協力が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	そよ風祭りを通し、地域の方と交流を深く持つて頂いている。又地域の認知症家族の会に参加し地域の方と交流し、認知症ケアの取り組みを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、ホームでの生活状況を報告し、利用者様とその人らしく地域の中で暮らし続ける大切さを、説明している。頂いた意見は、ケアサービスに取り入れるよう心がけている。	年間計画を立て、必要なメンバーに介護相談員の出席があり、2か月に1度開催している。議事録は全家族へ次回の参加依頼を記し、請求書と一緒に送付し、全職員にも回覧している。主席者からの質問に答え、施設の問題点も明らかにし、出された意見は活かせるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの方に運営推進会議で助言を頂いたり、包括主催の認知症家族の会、認知症フェスティバルに参加協同している。長寿介護課内GH連絡会では今年度事務局を担当。	行政主催のグループホーム連絡協議会が4か月に1度あり、三島市9事業所が集まり、情報交換等交流をしている。認知症フェスティバルでは職員が相談、展示コーナー等の運営に携わっている。介護相談員の来所は多く、協力してくれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進員養成研修を修了した職員が中心となり、カンファレンス、会議等で話し合い、この行為を防止する事を理解している。	身体拘束の研修は毎年必ず実施するようにし、職員は理解している。指の怪我の治療のためのミン等、やむを得ず拘束をする場合は身体拘束に対する記録をきめ細かく記入し、家族に説明して書面にし解除時には印鑑をもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、常時利用者様のさりげない身体観察をし、職員は研修で学び、カンファレンス等、言葉かけの対応を含み早期対応に努めている。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風 萩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年の研修発表において、資料にて理解を深めている又いつでも閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用いて説明し、入居・退居の理解・納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、意見や要望を伺って、又意見箱の設置・アンケート・利用者様会議で頂いた意見は、カンファレンス時で話し合い・共有し、改善に努めている。	利用者会議を毎月開き、意見、要望を聞いている。食べ物の希望やボール投げをしたいなどの意見が出て、イベント作り、おやつレク、和菓子の日等で叶えるようにしている。家族から事業所の場所が解りづらいとの意見には案内ガイダンスを作成し対応している。家族からの苦情受付簿の作成を実施、活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議又は管理者・センター長との個人面接の場を設け意見交換している。	職員はユニットリーダーや直接施設長に話し易い関係になっている。出された意見により勤務時間帯が変更され、職員の仕事量の多い時間帯にはパート勤務者を確保した。朝と夕方のミーティングで申し送り内容を確認している。重度化のケアの時は対応できる体制に職員の配置を考慮する。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面では、各々の努力や能力・実績に応じて、雇用形態の変更や給与の変更を行っている。また同時に、状況を見て役割を持つ等、やりがいに関しても配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	朝礼や回覧にて研修情報を知らせたり、研修担当職員が、各職員に必要な研修を受ける事が出来るよう、研修計画を立て、実地している。また個々のモチベーションを高める為現場でトレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議・三島グループホーム連絡協議会・運営推進会議にて同業者の方々の交流を持たせて頂いている。サービスの質の向上に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時は何に困っているのか、何が不安なのか傾聴に努め受けとめる。話しやすい静かな環境作りにも心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との相談の場を設け、一つ一つ親身に受けとめ、傾聴に努め、家族様からの要望や訴えを聞かせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの場合、介護保険上の他のサービス提供とは限られてしまうが、医療機関や地域とのインフォーマルなサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般において、利用者様が中心となり職員はサポートさせて頂く。掃除・洗濯・歌や散歩等のレクリエーション、昔話・調理に関する事を教えて頂く事により、暮らしを共にする関係が保たれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、面会時や電話にて連絡・報告させて頂く。家族会、行事等の案内を送付し参加して頂き、コミュニケーションを図り、楽しい時間を共有出来る様に努める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の希望に合わせて電話・手紙を用いて交流が遮断されないようにしている。家族協力の下、外出・帰宅をし、関係が保てるように支援している。	家族の面会時間に制限はしていない。元先生だった入居者のお弟子さんが訪ねて来ることがある。ボランティアの来所は多く、10年以上継続の人達もいて、入居者の楽しみになっている。デイサービスから入居した方はデイサービスの利用者と交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格を考慮した席場所の配慮や、歩行可能な方が車椅子を押して頂くなど支えあいを大事にしている。利用者様同士の関係を職員は把握している。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風 萩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族様の相談・悩みを電話にて応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方・生活歴等、家族様からのアセスメントを下に、共に生活する中で日々の様子・行動等をミーティング等で、職員間での情報共有を図り、思いを一人一人に検討するように心がけている。	傾聴に徹し、様子を見ながら意向を把握しようと努めている。モニタリングし、アセスメントをしてケアマネジャーからの意見を取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴を家族様、介護支援専門員等に十分に伺い、アセスメントに生かし、サービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日に2回の申し送りの時間を持ち、利用者様の現状把握を職員で共有する。月1度のカンファレンスで柔軟な対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族様にどのような生活を望むか聞き取り、また職員の情報や担当職員のモニタリング・申し送りを行い、計画作成担当者が介護計画を作成している。	入居者全員、3か月毎に計画を作成している。担当職員が中心になって担当者会議をカンファレンス時に行い、現状に合った介護計画書を作り、内容は回覧で全員が確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士の情報を共有し、個々の利用者様の介護計画・健康チェック・モニタリングの記録等にて介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出・外泊・訪問美容院・マッサージ・病院受診・往診・趣味活動等、本人様や家族様の希望に応える様に取り組む。併設のデイサービスとの連携を図る。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風 萩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて民生委員・地域の方に協力を得ている。また、ボランティアによる趣味活動の提供、訪問歯科・協力医の往診・マッサージ等、その他必要に応じて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様の希望により、かかりつけ医の選択をして頂いている。また、その医師・看護師・薬剤師との電話・ファックス・訪問にて連携を図っている。	車椅子使用の人も5分で行ける場所にある協力医に受診している。月1回往診がある。家族が契約して24時間往診の訪問診療を利用している人が3名いる。受診には情報を提供し、結果の確認は行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携による看護師や協力医・かかりつけ看護師・薬剤師等連携を図り、相談や指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	他施設への転所又は入院する場合、サマリー等も情報交換し、連携出来るよう努力している。月ごとの居宅訪問の際、当該の医療ソーシャルワーカーとの面談もお願いし、話し合いの場を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い看取り介護の指針についてご家族に説明し同意を頂いている。職員の看取り介護のスキルを今後研修等で習得する。	「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」があり、契約時に説明し同意書をもらっている。医師が「終末期」と宣言した時に、家族、兄弟と関係職員が話し合いをし、家族の協力が得られ、可能であれば看取り体制をとっている。職員は重度化の対応の研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内事故対応マニュアルと緊急時対応フローチャートをセンター内に掲示し、周知している。CPR講習は定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを各フロアに添付し、いつでも職員が閲覧できるようにしてある。定期的に防災訓練は行っている。	年2回訓練を実施している。地元の消防団の協力を得て夜間想定訓練を行った。7月の運営推進会議当日に併設デイサービス厨房からの火災を想定した訓練で、通報・避難・放水訓練等を行った。毎月本社へ備蓄等を含めた報告をしている。近隣の男性4名が訓練に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人がその時々々に注意し話し合い、利用者様に対する言葉掛けに注意している。個人情報の秘密保持の説明をし、漏洩防止に努めている。	入居時に便りに載せる写真掲示の許可を得ている。声掛け時は膝をついて目線を合わせ声のトーンに気をつけて接するようにしている。衣類・布団等の私物の扱いを大切に捉えている。研修をし、職業倫理や尊厳を持った対応の徹底に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添い、話しやすい環境作りを整え、時には職員が代弁者となるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の中で利用者様と寄り添える職員がいる勤務体制にしている。まだ勤務優先の場合も見られるが、できる限り希望にそえるよう支援している。勤務時間内での役割を明確にし、触れ合いを多くしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの組み合わせに配慮し、個性を尊重し、女性には化粧・整髪(美容院によるカット・カラー)等をさせて頂いている。メイクアップボランティアも受け入れ、女性利用者様には好評です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じて食事の準備・片付けをして頂いている。その時は必ず感謝の言葉を伝える又その日の献立をお知らせし、楽しみにして頂いている。	献立は本社から届き、職員が買い物に行き、畑の旬の野菜も使って職員の手作りを個々食べやすいように提供している。食材の下ごしらえや下膳、お盆を拭く等、エプロンを掛け、職員と一緒にできる人がやっている。職員が3食検食をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時の水分摂取量は毎回記録し、水分形態も一人一人に応じペースト・きざみ・ゼリー状・おかゆ等で摂取しやすく工夫している。自社の管理栄養士作成による献立表に基づき調理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には一人一人に応じた口腔ケアを実地している。義歯は夜間預かり食毒・洗浄を行っている。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風 菫)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人排泄パターンを把握し、利用者様からのサインを見逃さずに、気持ち良くトイレで排泄できるように支援している。日中布パンツ夜間リハビリパンツ等考慮している。	排泄チェック表をつけ、出来るだけトイレで排泄するようにしている。布パンツで失敗もなく自立の人もあるが、リハビリパンツ・パッドをスムーズに使用してもらえるよう、失禁時・後始末をする時、尊厳に注意し、対応に気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の影響を十分理解している。排泄チェック表により無排便を確認し、薬だけに頼らず運動や食物繊維・乳製品の摂取等工夫している。必要な方は主治医の相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を希望される方に添える様に時間帯を午前、午後に分けている。入浴時間も個々の健康状態を把握した上で、出来るだけゆっくり安全に出来るよう配慮している。安全のため、職員数が多い時間に行っている。	2つある個浴風呂を毎日沸かし、週3回は入浴できるようにしている。バイタルチェックをし、足浴、清拭になることもある。同性介助、2人介助で安全に入浴するようにしている。拒否する人にはベテラン職員の成功体験を記入した個人記録を全職員で見活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体を動かして頂き、夜間スムーズに就寝出来るよう支援している。また、昼夜逆転のある方は、主治医に相談し対応している。又居室の快適な温度管理をし、睡眠確保に努める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認し理解に努めている。体調の変化・服薬の変更は、すべての職員に申し送りをし確認している。服薬確認や介助も2名以上の職員で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力・希望に応じ、趣味活動を取り入れ、掃除・洗濯等の家事では役割を持ちながら出来る事を支援している。活動の場の提供をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	言葉掛けをし、希望ある利用者様は散歩や買い物へ職員と共に行けるよう支援している。又、毎月季節ごとに様々な場所への計画を立て、家族様が参加できるものも立てている。	南向きのベランダは広く、洗濯物を干すことがあるが、外気浴・日光浴にも利用している。玄関前の畑へ季節の花や野菜を見に行くことが多い。計画を立て、ドライブ等で出かけられるよう支援しているがほとんどの入居者は重度化により戸外への外出が少なくなっている。	入居者の体調を見て、家族やボランティアの活用等、方法の工夫をし外出支援に取り組まれることに期待したい。

静岡県(みしまケアセンターそよ風 萩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の状態を配慮した上で、その方にあった金銭管理をしている。残存能力に応じて好きな物を購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了承を得て、あるいは直接電話連絡が出来るような体制をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の扉には本人の名前が貼ってあり、トイレ・浴室等の表示もある。共有空間は天窓からの採光や音の大きさに留意し、季節感のある飾りや掲示板には、日常の様子・写真等が貼ってある。居心地良く過ごせる工夫がある。	玄関から歩く導線に手すりが付いている。重度化した人も全員毎朝居間に集うように支援している。台所が中心にあり、調理の匂いで食欲が湧く。職員と一緒に作る作品は季節を感じるものが多く、温かい空間作りになっている。大きなソファが置かれ、畳のスペースは多目的に使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が見やすい位置にテレビを、くつろいで頂くようにソファを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時には、家族様・利用者様になじみの物・興味のある物を使用できる事を説明している。常に個々の希望に応じている。	引出し付きクローゼット・カウンター・ベッドが備え付けられ、家から持ち込んだ写真やカレンダー・手作りのお花等の作品を飾っている。テレビ・仏壇を置いている人など各々その人らしい居心地の良い清掃が行き届いた居室になっている。寝具、衣類の衣替えの支援を職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活において、利用者様が参加しやすく、建物内部の設備も安心かつ使用しやすいよう設置されている。その中で、個々の能力に応じた声掛けや介助を提供している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600352		
法人名	株式会社 ユニマットそよ風		
事業所名	みしまケアセンター そよ風 グループホーム 桜		
所在地	静岡県三島市萩196-1		
自己評価作成日	平成26年 10月 20日	評価結果市町村受理日	平成27年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内は全てバリアフリー、手すりが設置され、明るさ、音、におい等利用者様視点で快適に暮らして頂けるような生活空間を整えて家庭的な雰囲気となるように努めています。近年はオルゴールの音色を流し、アロマを使って癒しの空間を作り安らぎを五感から感じて頂くようにしております。外気浴、散歩、入浴で気分転換をして頂ける様に日課を組んでおります
また、デイサービスの併設により、ボランティア様訪問による音楽、舞踊、マジック、詩吟等バラエティに觀賞でき週1~2回は参加して頂き外部との交流も盛んです。管理栄養士によるバランスの良い食事、おやつレク、行事食など常に喜んで頂けるように励んでいます。職員も明るく丁寧に個別ケアをするように心掛けています。体調の訴えが難しい重度化の利用者様の悪化予防に早期発見し医療とご家族様との連携を図っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&lievosvoCd=2270600352-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成26年 11月 27日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時事業所理念を復唱し確認、実践出来る様に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会のお祭り、防災訓練に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症家族の会へ参加しそよ風の取り組みを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの生活状況を報告、質疑応答でご家族様の思いをサービスに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長寿介護課からのお知らせ、会議には積極的に参加(GH連絡会、集団指導)している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を受け、会議、カンファレンスを行い職員一人一人が行為防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回は研修を受け利用者さまの尊厳を守る事を職員で共有している。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風 桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用している利用者があり、権利擁護、成年後見制度の研修を受け知識を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が説明し理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話等ご不満な点、苦情を頂きご希望に添えるようカンファを開き対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、全体会議で意見交換し反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握に努め給与水準は個々の能力を評価し、契約更新時賞与考課に反映している。一人一人が問題点を持ち解決していく様に問題提起している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合わせて研修を受ける機会を設け、適材適所での役割と苦手の克服は成功体験の情報共有でレベルアップを図る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東海山梨地区でのそよ風独自の研修、GH連絡会開催、包括への出前講座依頼等で向上している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントや日常の中で要望、困難になっている事を把握し、本人の意見を取り入れながら関係づくりに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安に思っている事をカンファ、担当者会議で話し合い安心なサービスを行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との面談聞き取りで思いを受け止め、居宅のケアマネとの情報交換をし必要な支援を見きわめる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設というイメージより家庭的な日常生活の環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方ともコミュニケーションをとり雰囲気づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の面会もいつでもうけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レク、皆でできる事を行う。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風 桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は行政手続き等の依頼や介護相談を受けた事はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、個々の好む今までのスタイルを大切にし お話を聞きコミュニケーションを取るようになっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居面談、居宅介護支援事業所からの情報で把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン、カンファレンスで話し合い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の話し合い、カンファ、モニタリングを通して意見を反映し取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に細かく記入し皆で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族とも相談し、経済状況、家族の健康状態も考慮し可能な限りとりくんでいる。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風 桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	DSと合同でボランティア活動の訪問を受け入れ、地域交流を図り観覧、会話を楽しんで頂く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力委員も含め、家族と相談しながら、個々のかかりつけ医と連携し指示に従い介護している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH(不在時DS)に常に連携し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先のソーシャルワーカーと情報交換し入院中の様子、経過、退院時の対応と連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の施設での対応については、延命、ご家族様の思いは契約時に看取りについての説明の時お話している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルで職員には周知しているがスキルに個人差はみられる。応急手当、初期対応訓練は今後も続けていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害総合、火災、夜間想定と年3回行う。地域の消防団との訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定はせず相手の相手の立場に立ってお話を聞いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の疎通は難しいが、声、表情、振る舞い等で利用者様の訴えを受け止め、日常の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	穏やかに時間の流れを意識して利用者様のペース合わせをしていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容を行い、身だしなみに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見た目、盛り付けの工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水防止でこまめに水分を採って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食ケアを行っており必要に応じて歯科往診をしている。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風 桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様が落ち着かない時等トイレへ促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や職員がおなかのマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤、雰囲気づくりをしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度、布団の調節をして寝つきをよい様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との相談し処方して頂き記録をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の好む事を行ってもらいストレスのない様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩や可能な限り、職員が対応している。遠方は家族の協力が得られた時に行っている。		

静岡県(みしまケアセンターそよ風 桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員が管理しており、必要な時は職員が支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自立度の高い方には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外気浴に行き野菜を収穫したり花を摘んだり外の風を感じて季節を感じて頂く。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話、意志の疎通が難しい時は、職員も間に入りコミュニケーションをとり昔の話をして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が安心できる物、使い慣れた物等をご家族に持参して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごして頂ける様に環境、整備等をこまめに行い妨げている。		